

教えて ドクター



眼の緊急疾患
国民の健康意識の高まりより
サプリメントの認識が広がった。

網膜中心動脈閉塞症

通常片眼の急激な視力低下。網膜中心動脈は終動脈であるため、急性の虚血状態が30〜40分続くと不可逆的な変化を起し、網膜は壊死に至る。
また、数時間以内に適切な治療を要する疾患は、開放性眼外傷や細菌性眼内炎などがあります。

眼の緊急疾患と治療までの対応時間	
I. 数分以内に治療が必要な疾患	
①角膜の化学的火傷	②網膜中心動脈閉塞症
II. 1〜数時間以内に治療が必要な疾患	
①細菌性眼内炎	②開放性眼外傷
③急性緑内障発作	④眼窩蜂巣炎
⑤黄斑部に及ぶ網膜剥離	など
III. 数日以内に治療が必要な疾患	
①視神経炎	②陈旧性網膜剥離
③眼窩底骨折	④視神経管骨折 など

眼部の強い痛み、著しい発赤・腫脹、急激な視力障害

しかし、本邦の眼科緊急外来および時間外来のうち、数分以内で処置しなければならぬ角結膜の薬物腐食は、約5%未満。非外傷性疾患で緊急処置を要する網膜中心動脈閉塞症は、0.3%未満、急性緑内障発作は約1%と頻度は低いです。

最近の10年間の救急疾患の統計は、外傷性眼外傷は、60%未満で、角結膜異物が20〜30%、コンタクトによる角膜障害は10%未満とされています。一方、非外傷性眼疾患はアレルギー性結膜炎を含めた急性結膜炎と結膜下出血が50%以上を占めています。眼科の救急疾患は必ずしも緊急疾患であることが少ないです。

救急患者の主症状の多くは、眼部の強い痛み、著しい発赤・腫脹、急激な視力障害です。

眼痛は、視力障害とともに患者にとつては重要で苦痛な症状です。中には、高度な視力障害を自覚しながら、眼痛がないため放置していた症例に出会うことがあります。

視覚は、日々生活している間は極めて安定した機能です。外傷はもとより、視覚にわずかな異常をきたすと本人は気づくはずですが、しかし、眼は2つあり、一方が悪いのに気づかず、たまたま片目を閉じて初めて気づくことがあります。幸いなことに、両眼が急激に見えなくなる疾患は稀です。両眼が時々暗くなるが、しばらくすると回復する訴えは、うつ血乳頭(頭蓋内圧亢進)、低血圧の失神、高度の貧血などの全身疾患でみられます。1日、2日のうち視力が低下し、時に視野が真黒になってしまう時は、球後視神経炎、乳頭炎などの視路の変化を考えます。急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離などは、急性視力障害を起しますが、ほとんど片眼で、両眼同時に起こることはまずありません。

視覚は安定した機能ですので、異常であれば重い疾患の可能性があり、緊急に対応しないとその患者の視力に重大な結果をもたらします。

角結膜の薬物腐食

実験中の酸やアルカリ溶液の飛入、工事現場でのセメントの飛入、グラウンドの生石灰の飛入は、角結膜に化学的に火傷を生じる。アルカリの腐食は、酸よりも持続的に組織に早く浸透するため、予後が悪い。

医学博士 川久保 洋 先生
1959年生まれ。川久保眼科院長
さいたま市立病院眼科医長
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、
現在に至る。
駿河台日大病院眼科兼任講師
日本眼科学会専門医。

川久保眼科



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー(角膜矯正療法)、
ボツリヌス毒素治療、コンタクトレンズの処方

- 診療時間 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00
- 休 診 日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F
TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp